

わ

が

街

わ

が

故

郷

金剛山の麓

井上軸受工業(株) 富田林工場

富田林工場の紹介

〒584-0053

大阪府富田林市大字佐備1640-1



工場全景

井上軸受工業(株)のルーツは井上鉄工所で、神戸市長田区が創業の地であった。

その後、現本社の所在地である堺市に移転、日本軸承工業株式会社に改組をへて1949年（昭和24年）、井上軸受工業株式会社に社名変更し商標を「IJK」とした。

1968年（昭和43年）富田林工場建設に着手、1969年（昭和44年）堺工場を本社機能とし、生産拠点を富田林工場に移した。

当時のことは社史のなかで「工場移転」および「移転秘話」として語られており、そのときの様子がよく表されているので抜粋紹介する。

『移転にあたっては操業を止めずに、というこ

とが大前提であった。

当時、自動車向けの受注を中心にフル操業が続き、お得意様からの注文に応えるためには一瞬たりとも生産ラインを止めない、まさに「離れ技」が必要であった。

ラインを止めないために付帯工事の進捗に合わせ、移転は3次に分散して行われた。1969年3月、自動車ステアリング用軸受の第1次移転に始まり、5月の2次移転で管理・技術・研削部門が移動、10月に組立部門が移動した3次移転によって半年余りにわたる移転はほぼ終了した。

この全期間にわたって、夕刻5時に堺工場の操業を止め、夜中をかけて富田林工場まで機械類を搬入・設置し、翌朝から操業するというように、まさにロスタイムなしの生産が続けられた。

当時は堺から富田林へ通ずる幹線道路はなく、丘陵地帯を縫うようにして走る山道があるだけで、舗装はされておらず、信号機や照明も一切設置されていないという、今では想像すらできないような道路事情であった。

この道路を夜を徹して設備を搬送するのであるからその苦労は十分しのばれるが、それ以上に大変であったのが搬入後の設置作業であった。夜中に富田林工場に機械が到着すると機械の据付を行い、そして調整を行った後、朝には稼働させるという極めてハードなスケジュールだった。

この連続で、疲れ果てて機械の側でへたりこむようにして眠ってしまう者もいたほどであった。」

このようにして富田林工場は産声をあげた。

現在は600万個の月産能力をもち、QS9000、ISO9001、ISO14001の認証を取得し、品質・環境において社会に貢献する工場となっている。

特に精密アンギュラ軸受は、その品質において多くのお客様より信頼を得ている。

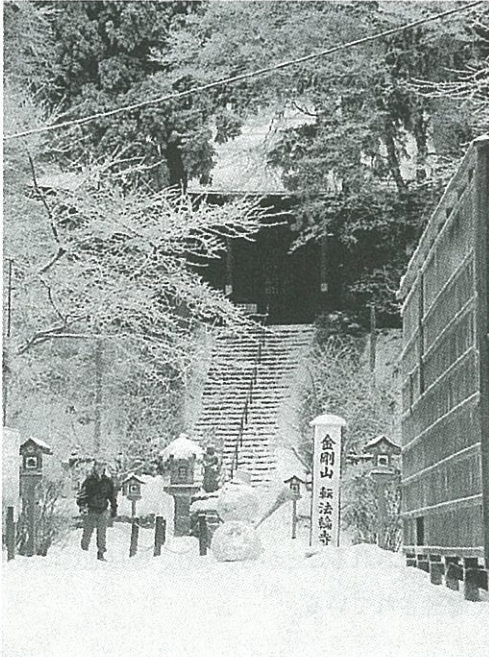
わが街の紹介

「金剛山下 菊水に、ゆかりも深き河内野の…」
これは我が社歌の歌いだしである。

この歌詞のとおり富田林工場は金剛生駒紀泉
国定公園の最高峰金剛山の西麓、河内平野の南
端に位置し金剛山系を境に東は奈良県、南は和
歌山県に接する。

わが富田林市とこれに隣接する太子町、千早
赤阪村を含めてご紹介しよう。

余談であるが、これらの市町村は平成の大合
併で、現在合併計画が進められている。



冬の金剛山

(1) 太平記の武将

先述の社歌にある「菊水」の意味をすぐにお
わかりの方は少々お年を召されているのではあ
るまいか、関東の方にはなじみが薄いかもしれ
ないが、これは太平記 主役の一人である楠木
正成の旗印であり、菊の花の下に川の流れる様
子が描かれている。

その楠木正成が生まれ育ったのが金剛山の麓、
千早赤阪村であり、富田林工場のすぐ上にある。



楠木正成誕生の地

楠木正成はこの地に赤阪城を築城、元弘の乱
では千早城を構築、後方が金剛山、残る三方は
深い谷となった地の利と奇想天外な戦法を駆使
して、鎌倉幕府の大軍を約100日にわたってこ
の地に釘づけにしたという。

この間に、各地で反幕府軍が蜂起。後醍醐天
皇の建武中興を成功に導ききっかけとなった。

その後、後醍醐天皇の建武政権と対立した足
利尊氏と兵庫県湊川で決戦し敗れ去った。

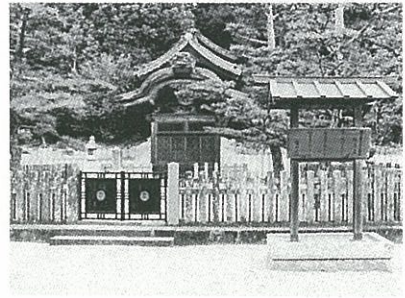


赤阪城跡



千早城跡

いと伝えられることから「三骨一廟」と呼ばれている。



聖徳太子磯長陵

天皇の勅命により湊川に出陣した正成は、自ら死を覚悟し途中、桜井の駅（大阪府三島郡）で息子の正行に後事を託した「桜井の別れ」は唱歌「青葉茂れる」に歌われており、戦前の教育を受けた方はご記憶ありと思う。

わが富田林工場の玄関横に「桜井の別れ」を表した石像がある。



楠木正成、正行「桜井の別れ」

この廟は叡福寺の奥深くにあり、叡福寺は廟を守護するため推古天皇によって建立され、奈良時代に聖武天皇が大伽藍を整備したと伝えられる。



叡福寺

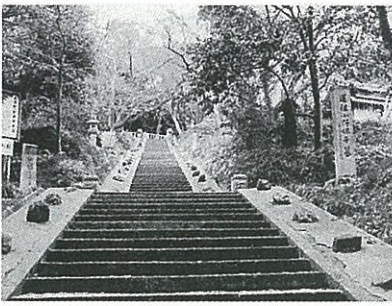
(2)古代日本の英雄

さて楠木正成は戦前の皇国史観の国家的英雄であるが、もう一人古代日本の英雄が隣町、太子町に眠っている。それは聖徳太子である。

聖徳太子が諸国巡察のときこの地で五色の光を見て霊地と感じ、ここに横穴式の石室を作らせており没後ここに葬られた。聖徳太子磯長陵（しながのみささぎ）といい、径50m、高さ10mほどの円墳で内部は切石を用いた横穴式石室で、太子と母君そしてお妃の三人の棺が納められて

また太子町には聖徳太子が「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙なきや」としたためた国書を隋国皇帝に届けた遣隋使の小野妹子の墓もすぐ近くにある。

余談であるが、妹子が聖徳太子の守り本尊の如意輪観音の守護を託され、坊を建て、朝夕に仏前に花を供えたのが、華道池坊流の起りになったとされることから、現在、塚は池坊によって管理されている。



小野妹子の墓



杉山家（歌人 石上露子の生家）

わが街から見ると大和朝廷は日出ずる処にあり、中国大陸は日没する処にある、シルクロードの最終の道「竹之内街道」はわが街をぬけ大和へと続く。

(3)現在の富田林市

富田林市は永禄年間に創建された興正寺別院を中心とする宗教自治都市で、その中心の富田林寺内町は現在でも創建当時の六筋七町の町割が残され、往事の繁栄を偲ぶ重厚な町屋が現存し、歴史的な景観を形成している。

一方、現在の富田林市でよく知られているのは、PL教団の花火と高校野球であろう。



PL平和祈念塔



PLとはPerfect Liberty「完全な自由」「真の自由」を意味し、「人生は芸術である。」とのPL宣言に基づいて毎年8月1日の教祖祭には「PL花火芸術」として3万発の花火が打ち上げられる。



富田林 寺内町



富田林市街とPL平和祈念塔

南河内の古墳群、奈良の大和朝廷、和歌山の高野山・熊野古道、興味のある者には歴史の玉手箱の真只中に位置するわが街である。

(井上軸受工業株式会社 北 忠史)